



ClearWorks

他システム連動マニュアル

株式会社スマイルワークス

2015/04/08 更新

はじめに

クリアワークスと他の会計システム間で仕訳情報を CSV ファイルに出力して、システム間で送受信をおこなうことができます。

対象一覧（2014/06 時点）

システム名	連動区分	対象バージョン
ACELINK 会計大将	双方向	Ver2.21
MJSLINK 財務大将	抽出のみ	Ver2.20
MICSNET 財務 Master	抽出のみ	-
J 社 財務	抽出のみ	-
ネット de 記帳	抽出のみ	Ver0.1X
勘定奉行	抽出のみ	勘定奉行 i8 2.03
弥生会計	双方向	弥生 14、弥生 15

本資料では、弥生会計の送受信をメインに説明します。クリアワークス側での操作方法は基本的にどのシステムでも同じです。

データ送受信先のシステムによる送受信機能については、ある程度の説明はおこないませんが、システム依存するケースがありますので、他システムでの操作上による不明点は他システム側のベンダーへお問い合わせください。

目次

はじめに.....	2
1. 他システム連動.....	4
1.1 他システム連動情報(基本情報).....	4
1.2 基本情報.....	5
1.3 科目コード変換.....	7
1.4 他システム連携（仕訳連動）.....	11
1.5 仕訳エクスポート.....	12
1.6 仕訳インポート.....	13
1.7 エラー内容.....	16

1. 他システム連動

1.1 他システム連動情報(基本情報)

[設定]ー[設定]ー[会計]ー[他システム連動]

クリアワークス(会計)と他システムの初期設定、及び、「勘定科目コード」「補助科目コード」「部門コード」を変換するため関連付を登録します。



Point

他システム連動でのコード変換設定が未設定の場合、正常に動作がしない場合があります。連携先システムやクリアワークスで勘定科目、補助科目を追加した場合は、必ずコード変換設定も合わせてを更新するようにしましょう。

1.2 基本情報

- ①【対象】連携先システムを選択します。ここでは「弥生会計」を選択します。
- ②【複合(諸口)科目コード】連携先システムで使用する諸口の科目コードを登録します。弥生会計では諸口コードが「000」なので、ここでは「000」を登録します。
※連携先システムで諸口が登録されていない場合は、追加登録していただき、その諸口科目コードを登録してください。
- ③【コード変換】勘定科目コード は必ず「変換する」を選択してください。
※補助科目コード、部門コード、社員コード のコード変換をおこなう場合は予めクリアワークス側に、連携先システムで登録済みの各コードを登録しておく必要があります。連携先システムで各コードを登録していない場合は「変換しない」を選択してください。
- ④【仕訳抽出区分】を選択します。ここでは、他システム向けに仕訳データを抽出する際の方法を指定します。

[前回連動移行の追加・修正分（データ抽出画面）]

前回連動した移行のデータに絞って出力（エクスポート）します。

2重で仕訳を他システムに連携してしまうことや、期間指定の手間を省くメリットがあります。但し、同じデータを2回続けて取り出すことが出来ないの、本処理に慣れていない内は、伝票日付指定をご利用頂くことをお勧めします。

[伝票日付指定（データ抽出画面）]

【会計データ抽出】	
仕訳	伝票日付指定 2014 ▾年 6 ▾月 2 ▾日 ~ 2014 ▾年 6 ▾月 2 ▾日
<input type="button" value="処理開始"/>	

抽出する伝票日付を期間指定します。任意に抽出することが出来ます。

何度でも同じ期間で抽出することが可能です。但し、他システムへ重複したデータを取り込まないようユーザー様の方で注視する必要があります。

1.3 科目コード変換

連動先システムの勘定科目コード(CSV)を取り込み、クリアワークスの科目と連動先の科目コードの関連付け（コード変換設定の登録）作業をおこないます。

※連動先システムのマスタデータ抽出機能は、連動先のマニュアルを参照してください。

コード変換登録をおこなうにあたり、クリアワークス、他システム双方に対し、必要な科目コードを登録しておく必要があります。双方のシステムにおいても標準的な科目は初期値で用意されていると思いますが、標準では足りていない科目や任意追加した科目については、不足しているシステム側に手動登録しておく必要があります。その際に科目名称を合わせておくと、後述する自動での関連付け機能で登録が容易となります。

【変換コードの種類】

- 勘定科目** 連動システム間の勘定科目コードの関連付けをおこないます。本設定は必ず登録してください。
- 補助科目** 連動システム間の補助科目コードを登録します。補助科目を利用している場合は必ず登録してください。
- 部門コード** 連動システム間の部門コードを登録します。システムによって必須ではない場合があるので、この登録も必須ではありません。登録しない場合は、「基本情報」で変換しないと選択してください。
- 社員コード** 連動システム間の社員コードを登録します。扱いは部門コードと同様です。

【登録の主な流れ】

コード	名称	自科目			→	連動先科目コード		弥生会計科目	
		科目タイプ	貸借区分	税区分		コード	名称	コード	名称
111	現金	現金・預金合計	借方		→	100		100	現金
112	小口現金	現金・預金合計	借方		→	101		101	小口現金
121	当座預金	現金・預金合計	借方		→	110		110	当座預金
131	普通預金	現金・預金合計	借方		→	115		115	普通預金
141	通知預金	現金・預金合計	借方		→		※	120	通知預金
151	定期預金	現金・預金合計	借方		→		※	124	定期預金
156	定期積金	現金・預金合計	借方		→		※	128	定期積金
164	貸倒引当金(売)	売上債権合計	借方		→		※		
					→			130	郵便貯金

一覧部にクリアワークスで登録されている情報が表示されます。足りていないコードについては各種マスタ登録で新規登録すると表示されるようになります。

クリアワークスの科目に対し、他システムの科目情報の関連付けをおこないます。

他システムの科目情報は CSV 取込でのみ情報を登録することが可能であり、更に、入力項目である連動先科目コード値を入力することで、関連付けがおこなわれます。

大きな流れとしては以下の通りです。

- ①クリアワークスと連動先システムの科目構成を合せる。特に名称を合せる。
- ②連動先システムから科目情報の CSV 出力をおこなう。
- ③連動先システムの科目情報を CSV 取込でクリアワークスへ取り込む
- ④クリアワークス科目と連動先システム科目を画面上で関連付けする。

【変換画面の説明】

コード	名称	自科目	科目タイプ	貸借区分	税区分	連動先科目コード	弥生会計科目
111	現金	現金・預金合計	借方			100	100 現金
112	小口現金	現金・預金合計	借方			101	101 小口現金
121	当座預金	現金・預金合計	借方			110	110 当座預金
131	普通預金	現金・預金合計	借方			115	115 普通預金
141	通知預金	現金・預金合計	借方			※	120 通知預金
151	定期預金	現金・預金合計	借方			※	124 定期預金
156	定期積金	現金・預金合計	借方			※	128 定期積金
164	貸倒引当金(売)	売上債権合計	借方			※	130 郵便貯金

【上段部】

- CSV ファイル 他システムから出力した科目の CSV を選択して取込みます。
- データを初期化する CSV 取込前に設定済みのデータを全て削除します。削除したデータは元に戻せないで注意が必要です。
- 上書きでの取り込みを許可する CSV インポート時に「連動先科目コード(入力ボックス)」を自動関連付けされたコードで上書きします。**※チェック(選択)推奨**
- CSV 取込み 指定した CSV ファイル情報（他システムの情報）を取込みます。
- 印刷 表示されている設定を PDF 形式で出力します。
- 登録 科目一覧で変更した内容を登録します。
- 連動先コードを自科目にコピー 一覧部に表示されているクリアワークス側（自科目）の科目コードを、対になっている「連動科目コード」に登録されているコード番号に置き換え（更新）します。更新するとデータを戻せないで注意してください。

【CSV ファイル取込について】

クリアワークスと同じ科目名のものが他システム側の科目として表示します。(関連付けられているということではないので注意してください)

名称の完全一致した時に表示され、一字違いや半角・全角違いは名称一致対象として表示されませんのでご注意ください。

また、オプションによって動作が異なります。

- ・ オプションなし 連携先システム側の「コード」、「名称」が更新されます。
- ・ データを初期化する 連動先科目コード（入力ボックス）が全て初期化されます。
- ・ 上書きでの取り込み 連動先科目コード（入力ボックス）に対し、自動処理で名称一致した対象コードを上書きします。既存データは上書きされます。

【一覧部】

対象科目のコード変換が関連付けされた一覧となります。

左側がクリアワーク스에登録されている科目で、右側が連動対象システムの科目となります。

他システムに CWX の仕訳をインポートする場合は、左側→右側

他システムの仕訳を CWX にインポートする場合は、左側←右側に変換するイメージです。

【一覧左側】

自科目 クリアワーク스에登録されている科目情報が一覧表示されます。

コード・名称・科目タイプ・税区分 対象科目の情報です。

【一覧右側】

○○科目 連動対象の科目一覧です。

※CSV 取込をおこなわないと表示されません。初めに CSV 取込のステップをおこなう必要があります。

連動先科目コード CSV 取込時に読み込まれたコードを指定する項目です。**ここに値が入っていないとコード変換されません。**赤色の「※」が表示されている項目は登録が必要なことを表しています。

※任意に指定する項目ではありません。よって、CSV 取込をおこなわないと利用することが出来ません。

コード・名称 CSV 取込で他システム側の科目情報です。

CSV 取込時に科目名が同一のものはここに表示されます。一致している情報に問題なければ、「連動先コード（入力項目）」に、表示されているコードを登録します。

一致していない科目は、一覧最下部に左側の CWX 科目が表示されていない行で表示されています。

左(CWX)側が表示されていないデータ		→	180 販売消費税
		→	208 一括償却資産
		→	209 減価償却累計額
		→	221 施設利用権

外れているデータは、対になるクリアワークス側の科目の「連動先科目コード」にコード登録します。

1150 不渡手形	売上債権合計	→		※	141 不渡手形
1164 販売消費税等	他流動資産合計	→	180	× ※	
1171 貸倒引当金(売)	売上債権合計	→		※	149 貸倒引当金(売)

【作業手順】

- ① 他システム側から抽出した科目の CSV を用意します。
- ② 他システム側の CSV ファイルを「CSV ファイル」に選択します。
- ③ 必要に応じて「データを初期化する」、「上書きでの取り込みを許可する」にチェックを入れます。
※「上書きでの取り込みを許可する」にチェックをいれると同一科目名のもは取込時に「連動先科目コード」にコードが入力されるので推奨します。但し、自動で関連付けされてしまった設定に問題はないかご確認ください。
- ④ 「CSV 取込み」ボタンを押下します。
- ⑤ 取込が成功すると連動先システム側の科目情報が一覧に表示されます。
- ⑥ 自動で関連付けされたデータと自動の関連付けから外れたデータを確認します。
- ⑦ 「連動先科目コード」に「※」が表示されている個所にコードを登録して関連付けをおこないます。**※この作業をおこなわないと仕訳連動時に変換できず連動エラーが発生します。**
- ⑧ 手動でコード変換の関連付けが完了したら、「登録ボタン」押下します。

【よくある落とし穴】

他システム側で科目が登録されているのにも関わらず、クリアワークスの CSV 取込で科目が取り込まれない場合があります。

システムによって、科目の「コード番号」が必須ではない場合があり、「コード番号」が未設定の場合、「CSV 取込」の対象外となります。(クリアワークスでは必須であるため。) その場合は、他システム側の科目設定において、コード番号を登録して CSV 取込し直してください。

【コード変換パターンの制約】

コード変換のパターンは同種コードの「1 : 1」でのみ登録することが可能です。

1.4 他システム連携（仕訳連動）

クリアワークスと他システムで仕訳データのやり取りをおこなう画面を説明します。

[会計]—[月次]—[他システム連動]—[他システム連動]



1.5 仕訳エクスポート

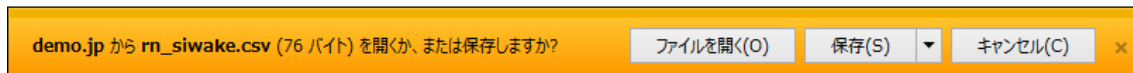
他システム連動画面の上部でクリアワークスから仕訳を抽出（エクスポート）します。

※出力対象の仕訳に使用されている、勘定科目、補助科目の科目コード変換が未設定の場合、エラーなしで完了しますが、他システムのインポートで正常に動作しないことがあります。利用する科目は必ず、「1.3 科目コード変換」にならって登録をお願いします。

仕訳の抽出条件は、基本情報の仕訳抽出区分の設定値で異なります。詳しくは、「1.2 基本情報」を参照してください。

【作業手順】

- ① 伝票日付の指定を選択します。（日付指定設定をおこなっている場合のみ）
- ② 「処理開始」ボタンを押下します。（出力件数によっては時間が掛かる場合があります。）
- ③ 一般のダウンロード時と同じようにポップアップが開きます。CSV ファイルを任意の場所に保存してください。



【弥生会計の場合】

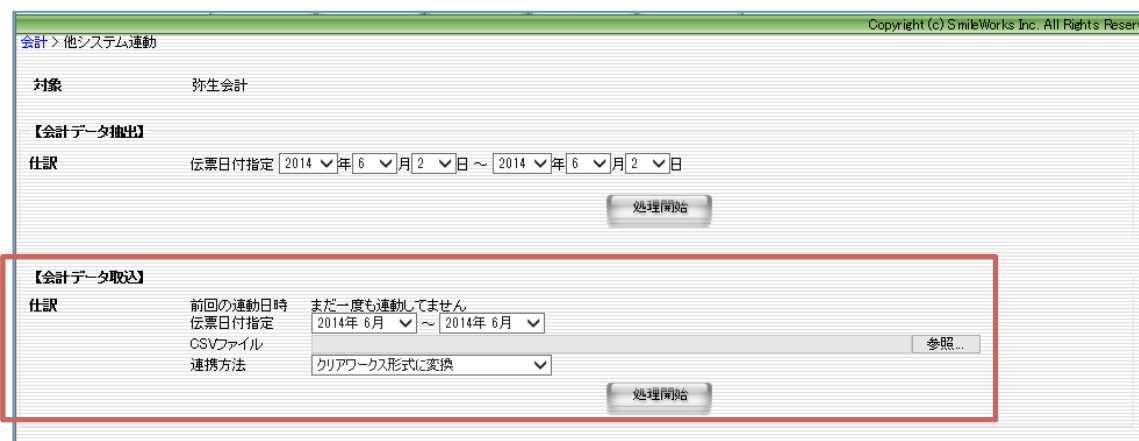
科目コード変換の設定が未設定のデータがある場合、弥生会計向けに出力 CSV ファイル上にエラーメッセージが出力されます。こちらを参考に科目コード変換設定を見直してください。

<CWXエラー>借方勘定科目の変換に失敗しました。	2000	52	2013/1/3	現金
<CWXエラー>貸方勘定科目の変換に失敗しました。	2000	53	2013/1/4	現金

1.6 仕訳インポート

他システム連動画面の下部で他システムから出力した仕訳を入力（インポート）します。

※入力対象の仕訳に使用されている、勘定科目、補助科目の科目コード変換が未設定の場合、本処理で正常に動作しないことがあります。利用する科目は必ず、「1.3 科目コード変換」にならって登録しましょう。



【弥生会計の場合】

弥生会計の場合、取込の処理は大きく以下のような流れで取込みます。

- ① 弥生会計⇒クリアワークス入力用コンバート処理
- ② ①でエラーがある場合エラー出力（エラー時は取込がおこなわれず、処理はここで停止します。）
- ③ クリアワークス仕訳インポート処理（会計—日次—仕訳 CSV—CSV インポートと同じ処理）
- ④ ③でエラーがある場合エラー出力（ここでのエラー内容は基本的に弥生会計側で登録されているデータを修正して頂くケースが多いです。）

連携方法によって動きが異なります。

- ・弥生形式で仕訳データを取込・・・

弥生会計で出力された CSV ファイルをそのままクリアワークスに取り込みます。（①、②、③、④の処理を一度におこなう）

- ・クリアワークス形式に変換・・・

弥生会計で出力された CSV ファイルを一度クリアワークスに取り込める形式の CSV ファイルに変換して出力します。（①、②の処理のみ）ここで出力された CSV データは、「会計—日次—仕訳 CSV—CSV インポート」でも利用することが出来ます。

・クリアワークス形式で仕訳データを取込

クリアワークス形式に変換されたデータを取り込むことができます。(③、④の処理のみ)

「会計一日次—仕訳 CSV—CSV インポート」との違いは、期間指定した仕訳データを削除しない点です。必要に応じて使い分けしましょう。

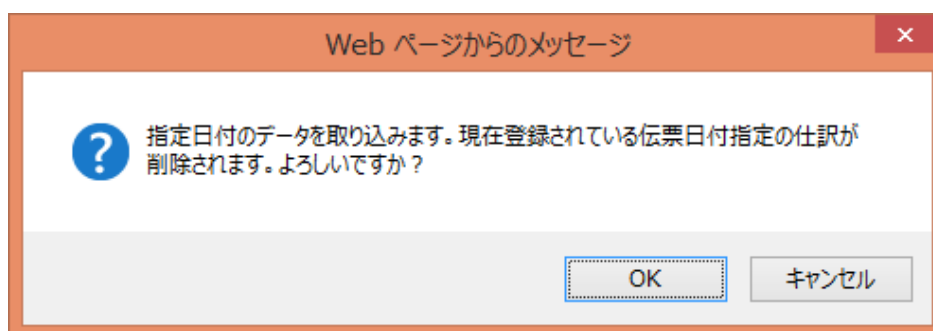
それぞれの処理でエラー出力されるので、エラー件数が多い場合は、「弥生形式で仕訳データを取込」の一括処理をおこなわず、「クリアワークス形式に変換」⇒「クリアワークス形式で仕訳データを取込」と単体で動かして、少しずつエラー要因を排除していくことを推奨します。

他システム側のデータ出力場所（詳細は各システムのマニュアル参照）

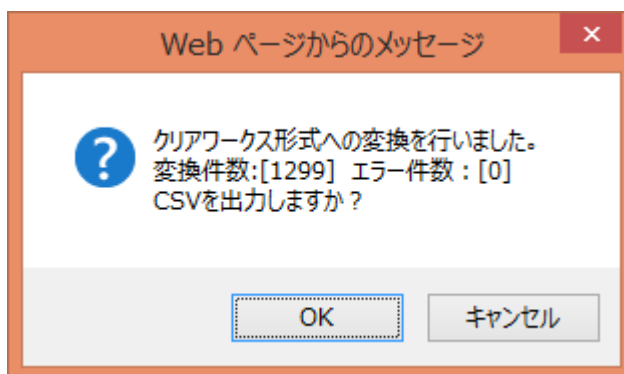
システム名	機能	書式・出力形式
ACELINK 会計大将	—	—
弥生会計	仕訳日記帳	弥生インポート形式

【作業手順】

- ① 伝票日付指定を選択します。※ここで指定した期間の仕訳データが削除されます。必要に応じて事前に CSV バックアップを取得しておきましょう。



- ② 他システムから出力した CSV ファイル、または、クリアワークス取込用の CSV ファイルを指定します。
- ③ 連携方法を選択します。(弥生会計の場合)
- ④ 「処理開始」ボタンを押下します。(取込件数によっては時間が掛かる場合があります。)
- ⑤ 処理結果が出力されます。エラーがある場合、取込みがおこなわれずエラーログが出力されます。



【他システム連動で仕訳が削除される条件】

他システム連動からの仕訳取込時には、画面で指定した対象期間の仕訳データが削除されます。

画面上での期間は月で指定するので、仕訳削除する対象データは以下のようになります。

例：画面の指定期間は4月～5月の場合

会計期間 例1：00/04/01～01/03/31・・・04/01～05/31の仕訳伝票が削除される。

会計期間 例2：00/01/01～00/12/31・・・04/01～05/31の仕訳伝票が削除される。

会計期間 例3：00/04/20～01/04/19・・・04/20～06/19の仕訳伝票が削除される。

1.7 エラー内容

ここでは良くあるエラーについて紹介します。

【仕訳データ抽出時（弥生連携のみ）】

よくあるエラー内容	主な原因
借方〇〇の変換に失敗しました	借方に設定されている〇〇（勘定、補助、部門、社員）科目の科目コード変換設定が未設定である場合があります。科目コード変換設定を見直してください。または、部門や社員の場合、基本設定の「コード変換なし」にすることで回避出来ることもあります。
貸方〇〇の変換に失敗しました	貸方に設定されている〇〇（勘定、補助、部門、社員）科目の科目コード変換設定が未設定である場合があります。科目コード変換設定を見直してください。または、部門や社員の場合、基本設定の「コード変換なし」にすることで回避出来ることもあります。

他システム側で発生したエラーについては、他システム側のマニュアルを参照してください。クリアワークスから出力した仕訳データがインポートエラーとなり、エラーが回避出来ないようであれば、以下の情報をクリアワークス事務局（support@clear-works.jp）まで、送付の上、ご相談ください。

- ・ CorpID
- ・ クリアワークスからエクスポートした CSV ファイル
- ・ エラーログ
- ・ 連携先システムの情報（システム名、システムのバージョンなど）

【仕訳インポート時】

エラーログ上の左端にエラーメッセージが出力され、その右隣が該当データとなります。

よくあるエラー内容	主な原因
借方〇〇の変換に失敗しました	借方に設定されている〇〇（勘定、補助、部門、社員）科目の科目コード変換設定が未設定である場合があります。科目コード変換設定を見直してください。または、部門や社員の場合、基本設定の「コード変換なし」にすることで回避出来ることもあります。
貸方〇〇の変換に失敗しました	貸方に設定されている〇〇（勘定、補助、部門、社員）科目の科目コード変換設定が未設定である場合があります。科目コード変換設定を見直してください。または、部門や社員の場合、基本設定の「コード変換なし」にすることで回避出来ることもあります。
摘要に不正な値が入力されています	摘要欄がクリアワークスで許容されている文字数をオーバーし

	<p>ている可能性があります。クリアワークスでは、摘要欄を全角 30 文字（半角 60 文字）以内である制約があるので、連動元システム側の仕訳データを修正して再連携してください。</p>
<p>金額に不正な値が入力されています</p>	<p>借方金額 0 円、貸方金額 0 円で構成されている「明細」に対し、エラーが発生している可能性があります。クリアワークスでは、該当データは許容されていないので、連動元システム側の仕訳データを修正して再連携してください。</p>
<p>〇〇税区分に不正な値が入力されています</p>	<p>複合仕訳において、5%、8%混在の税区分が設定されている場合があります。クリアワークスでは、同一伝票内での複数税率の混在には対応しておりませんので、連動元システム側の仕訳データを修正して再連携してください。</p>
<p>行番号に不正な値が入力されています</p>	<p>複合仕訳において、行番号の順番が順序通りになっていない時に発生します。複合仕訳内で別のエラーが発生すると、その後の同一伝票の明細が全てこのエラーが発生するので、元のエラーを正せば出力されなくなります。</p>